

# ネーティブ先生奮闘

## 光星高の韓国語講師・ミンソンさん(六戸在住)

八戸学院光星高(中村良寛校長)の普通科進学コース国際教養系で、韓国入女性講師が活躍している。ソ・ミンソンさん(24)は六戸町在住。2023年度から韓国語の授業を担当し、流ちょうな日本語と明るい人柄で生徒の人気を集める。さまざまな出会いが自身を八戸の教壇に導いたことを振り返り、「子どもたちも未来でチャンスをつかめるよう手伝いたい」と力を込める。(上條哲洋)

## 笑顔絶えぬ授業、文化も紹介

韓国・ソウル生まれ 勤務。20年に米軍三沢のミンソンさんは仁川大 基地に所属する米軍人学でドイツ語を学んだ と結婚し、一緒に暮ら後、ドイツ系の会社に ため来日した。



八戸学院光星高で生徒に韓国語を指導するソ・ミンソンさん(奥) 15日、八戸市

昨年から教壇に立ち始めたミンソンさんは、「生徒を見回して、どんどん質問する」ことを意識。韓国の文化も紹介しながら、生徒と一緒に笑顔が絶えない授業をつくり上げている。

20年度に新設された国際教養系は1学年の選択人数が10人ほどだったが、本年度2年生は21人が選んだ。2年の根城ゆのんさん(16)は「ミンソンさんは優しく話しやすい。ネーティブの話し方を分かりやすく教えてくれるし、日本語も英語も話せてすごい」と笑顔で話す。

同校進学コースは2年になると、自分の進路希望に応じて四つの系に分かれる。国際教養系は英語だけでなく韓国語を学び、修学旅行も韓国を訪れてグローバルな視野を養う。赤間俊勝教頭は「試験のための語学だけでなく、実際に話ができる『生きた言葉』を学ぶことが大切。ネーティブであるミンソンさんの存在は大きい」と語る。

### 「子どもたちのチャンス手伝いたい」